

# 民俗博物館だより

Vol.47 No.1

2022. 3. 25



有形民俗資料の修復（京都芸術大学での実習風景）

有形民俗文化財を未来に受け継いでいくためには、若い力が必要です。  
当館では、平成 29 年 (2017) に京都芸術大学との間で連携協定を締結、所蔵資料を歴史遺産学科に貸し出し、修復実習の教材として、また保存修復の研究資料として活用を図っています。  
(手前は丸形行灯の修復、奥は雛の御殿を修復している様子)

---

## 目 次

---

活動報告 常設展再開までの軌跡 . . . . . 1

みんぱく春夏秋冬 令和 3 年度の活動記録 . . . . . 7

---

## [活動報告]

## 常設展再開までの軌跡

茶谷まりえ

## ■はじめに

当館は、耐震補強工事のため 2020 年 2 月から 1 年間にわたる本館休館の末、2021 年 3 月 3 日に常設展示を一新して再開しました。その経緯については、溝辺悠介学芸員が奈良新聞掲載の「新なら民俗通信」第 9 号（2021 年 7 月 2 日掲載）、筆者が第 14 号（同年 12 月 3 日掲載）で概要を紹介しましたが、本稿では、あらためて再開までの日々をふり振り返り、その後の活用における気づきと想いを書き留めたいと思います。

## ■“古びた” 展示との新しい出逢い

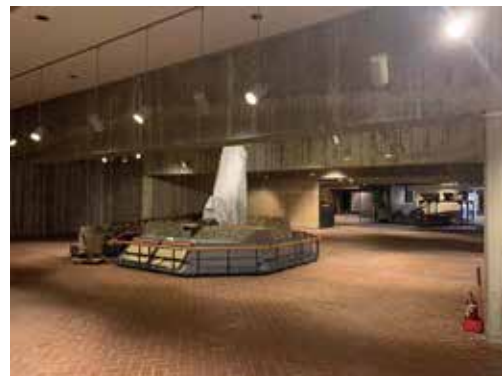
奈良県立民俗博物館は、1974（昭和 49）年の開館以来、約 50 年になる古い博物館です。館内外の各所に「年季」が感じられ、設備も展示器材も古くなり、地震への対策も不十分になっていました。悲しいことに、来館者からも「狭い」「暗い」「よくわからない」といった意見をいただくことが少なくありませんでした。実際のところ、私たち学芸員にとっても不便な部分は多く、悩みは尽きませんでした。大幅なリニューアルがおこなわれなかった反面、昔ながらの展示器材や手法そのものが貴重な資料でした。

そのような折、大規模な耐震補強工事をおこなうことが決まり、そのためには一度館内の全ての展示物を撤収する必要がありました。このことをきっかけに、常設展示を一から見直し、新しく組み立てることになったのです。

休館前日、館内の様子を撮影しながら一周していると、いろいろな感情がこみ上げてきました。悩みの種だった古びた展示もあらためて見ると愛着を感じ、50 年という時間の流れに想いを馳せました。私にとっては初めて経験する大きな出来事を前に、期待と不安が入り交じった不思議な感覚をおぼえました。

工事を目前に控え、まず取りかかったのは展示資料の移動・撤去と保護です。資料を仮置きする場所を設けるために館内の片付けと大掃除をくり返し、展示資料の前に設置されていた数十本もの重いパーテーションと古いパネルや展示台を次々と移動させていきました。大型の資料は工事業者の方々の力も借りて運び、

どうしても動かすことのできないジオラマなどは保護シートで覆って工事に備えました。中には壊して撤去する必要のある展示物もありましたが、感傷に浸る間もなく運び出されていく様子を見ながら、業者の方々の手際の良さに驚かされました。所狭しと並んでいた資料や展示台が無くなった展示室はとても広く、知らない場所のように感じられました。



【写真①】 展示物がなくなった展示室

その後、耐震補強壁の設置工事が半年ほど続き、館内には毎日ドリルやハンマーなどの音が響きました。併せてトイレの改修がおこなわれたこともあって、水が止まったり電気が止まったりすることもあったため不便なこともありましたが、少しずつ進んでいくのを感じる度に期待が高まっていきました。

その間には、展示業者によるジオラマの補修もおこなわれました。前述のように古い展示器材が多く残っている中で、特に職人さんを唸らせたのは、もともと吉野林業を紹介するコーナーに設置していた「筏流し」のジオラマです。作業の様子を時々見学させていただきましたが、筏師のリアルな表情や動き、精巧に作り込まれた衣服や持ち物、川の水を表現している透明度の高いアクリル樹脂は今の技術をもって再現が難しいのだということを教わりました。もちろん、このジオラマを製作したのは学芸員ではなく開館時の担当業者の職人さんです。しかし、時を超えて尊敬されるような“仕事”との出逢いは私たちに大きな感動を与えました。その後、大型パネルのデザイナーや施工の担当業者の皆さんにそのことを伝えたところ、ジオラマ

の雰囲気はそのままに、壁面の写真を新調してジオラマを際立たせ、解説文を入れ込むことになりました。

他にも、玄関ホールの壁に設置されている奈良県の立体地図の品質の高さや斬新さ、奈良県の人口や市町村の移り変わりなどをまとめたパネルは大型印刷の技術や素材が低かった時代に手描きされたものであることの凄さなどを教わりました。当館では、普段の展示では展示業者をお願いする機会はほとんど無いので初めて知ることも少なくなく、プロからプロへの尊敬と博物館のために優れた展示物を製作してくださった先人の想いに胸が熱くなりました。いずれも新展示の中で現在も活用されています。



【写真②③】立体地図と大型パネルを活用した展示解説とジオラマの見学風景

## ■「新しいみんなく」を目指して

本館休館中は、できなくなったこともたくさんありました。その上、新型コロナウイルスの感染拡大が重なり、園内の古民家を活用したワークショップや小学校の校外学習も中止や延期が相次ぎました。休館中の取り組みについては昨年度の『博物館だより』でも紹介しましたが、“今しかできないみんなくの楽しみ方”を提案しようと、民俗博物館のホームページ上で季節の行事やものづくりを楽しむアイデアを公開したり、博物館の資料に親しむことができ、予習復習に活用できるデジタルコンテンツ「どこでもみんなく」を公開したりしました。この時の経験は、その後の展示構想や教材作りにも大きな影響を与えています。

いよいよ展示物を戻す段階になった年末年始にか

ては、“どんな展示にしたいか”、そして“誰”に“何”を見て・感じてもらいたいのかを延々と考え続ける日々でした。

展示テーマは比較的早い段階で「農村の四季」「川と人のかかわり」「地域のものづくり」「昔の暮らし」に決まっていたのですが、展示計画を考える上で大きな“要”になったのが来館者、特に年間70校を上回る利用がある小学校の先生や子どもたちの声でした。特に、展示室の暗さや展示パネルのわかりにくさは多々見られる感想でした。校外学習においては、展示室での行程だけでなく、荷物置きや昼食場所、トイレの位置関係などを踏まえて見学プランを組み立てる必要があります。そこにコロナ禍における利用を想定した、換気や分散や消毒といった課題も山積みでした。

結果として、耐震のための補強壁が入った分だけ展示室は狭くなり、それに伴って展示点数も少なくなったのですが、不思議なことに、明るい感想を多数いただくようになりました。その背景にはもちろん展示内容の見直しとそれに沿った資料の再配置がありますが、照明器具の刷新も大きな要因だと感じます。もともと展示室には大量の器具が天井からかなり低い場所までぶら下がっている状態でしたが、照明業者の方に相談したところ、物理的な圧迫感だけでなく、配置・色味・照度・角度が博物館全体を狭く暗く見せていたことがわかりました。併せて、老朽化した展示台のカラフルなカーペットをグレーに統一しました。民俗資料はどうしても木や藁などでできたものが多いため全体が茶色っぽくなりがちですが、見慣れた資料が見違えるように際立ち、力強さや美しさを感じられるようになりました。

前述のように、今回の展示替えでは多くの人たちが関わっていただきました。全体の計画や進捗管理といったマネジメントから使わなくなった展示器具の撤去・移動、耐震補強壁の設置、資材の運搬、模型の補修、照明器具の取り換え、展示台の塗り直し、パネルの設置、館内の燻蒸や清掃、映像コーナーの整備まで、数え切れないほどたくさんの人の手をバトンが渡ってきました。おそらく、私たちが知らずにいた仕事もあったと思います。その中でも特に最後までやりとりが続いたのは、新たに制作した大型の解説パネルやマグネット式の年表などに携わってくださったデザイナーや職人の皆さんです。制作を依頼した展示物についてのアドバイスやアイデアはもちろん、展示台の塗り直し方から展示台のカーペットの張り替えのコツ、比較的簡単に手に入る材料で展示器具を補強する方法、



頑固な糊痕の落とし方など…“完成して終わり”ではなく、簡単にできるケアやメンテナンスをこまめにおこなうことで、永く維持する方法を教えてくださいました。同時に、この時の経験は博物館がいかにたくさんの人たちの想いでできているかということが私たちの心に深く刻み込まれました。

■今、私たちができること

長い準備期間を経て再開館した後も、新型コロナウイルスによる影響は今なお続いています。感染者数が急増した時期には遠足が中止になった学校も多数ありましたが、それでも令和3年度は過去最多の83校から6,267名の子どもたちが見学に訪れました。

来られなくなった学校には、今年度から導入した学芸員手作りのクロスワード式教材や貸出資料を活用し、先生方と解説動画を制作するなどして“リモート”でも昔のくらしや道具にふれる楽しさを伝えられるように工夫を重ねてきました。

さらに、感染症対策のため「体験コーナー」が休止になっていた時期には、LED式のランタンを持って子どもたちと一緒に古民家を探険したり、消毒可能なマグネット式の「昔の道具年表」を使ってゲーム形式の展示解説をしたり、古民家で提灯や行灯といった昔の照明器具を“体感”するプログラムを実施したりと、“非接触”プログラムを多数実践しました。



【写真⑥】新しくなった常設展



【写真⑦⑧】年表パネルとクロスワードを取り入れた見学風景



【写真④⑤】古民家探険の様子と昔の照明器具の体感プログラム

年表パネルはもともと常時体験できるように考えたものですが、パネルにデザインされている道具のシルエットを活かした“非言語”プログラムにより、小学生だけでなく保育園の子どもたちにも昔の道具に親しんでもらえるようになりました。

展示室や設備が整ったことでできることは格段に増えました。しかし、博物館にとって大切なことは“来ること”ではなく“何を持って帰ってもらうか”なのだということをあらためて確信した2年間でもありました。「めちゃくちゃ楽しかった!」「また来たい!」と笑う子どもたちを見ていると、それだけで博物館としての意義が果たされているのではないかと感じてしまうほどの感動をおぼえますが、これから先も一連の経験と想いを忘れず、今だからこそできることを探し続けていきたいと思っています。

# みんなく春夏秋冬

## 令和3年度の活動報告

耐震補強工事を終え、令和3年3月3日より常設展を再開しました。

新常設展が本格的に移働するにあたって、当館の団体利用の大多数を占める小学校にその普及を図り、学校教育の中で有効に活用していただくために、要となる先生との連携強化が不可欠です。従来から、日常業務の中でも重点を置いてきた活動の一つですが、本年度はさらに新たな目で見直し、力を注ぎました。

担当の先生からの問い合わせや予約には、学芸員が直接電話対応し、教材サンプルの事前配布を行うとともに、常設展の大幅な変更を伝え、可能な限り実見していただくよう促しました。来館時には、対面で現場の生の声（学習の意図や目標、生徒の興味や理解度、教師の目で展示をみた感想や要望など）を聞かせていただき、各校ごとに違う授業のイメージを大切にしながら丁寧に事前打ち合わせを行いました。

さらに見学当日は生徒の反応を注視し、事後に先生にアンケートを実施するなど、今年得られた情報の蓄積が、次年度以降の活動の布石となります。

昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響は深刻で、団体見学のキャンセルも多くありましたが、これに代わって学校からの資料の貸出申込の件数が増え、また活用資料の種類が以前より広がりました。ホームページに掲載している「学校でみんなくを活用しよう」等のコンテンツが着実に浸透し、有効に機能してきているという手ごたえを感じます。

普及活動にも中止や規模縮小、内容面での見直しなど様々な困難が伴いましたが、昨年から引き続き行った奈良県立図書情報館、イオンモール大和郡山に加え、奈良県立万葉文化館、奈良まほろば館（東京）でもサテライト展示とワークショップを実施、これまでとはまた異なった地域や年齢層の方々との交流の幅を広げることができました。

さて、耐震補強工事では、常設展示室だけでなく企画展示室やビデオ学習室なども改修を行いました。

昭和62年（1987）、無形民俗資料の公開を目的として設けられたビデオ学習室は、当初6ブース216席、249番組がランダムアクセスできるシステムを備えていましたが、経年による機器の老朽化で年々機能が

低下し、復旧は困難な状態となっていました。

今回の改修で、映像の視聴に特化した空間から、様々な民具の実演や体験コーナー、団体に対するレクチャーやワークショップの開催、市民との連携事業における活用など、フレキシブルな活動が様々に展開できる多目的空間へ、大きく転換を図りました。

映像上映については、常設展と隣接する一面にビデオプロジェクターを設置し、季節ごとに番組を入れ替えて公開。常設展（「農村の四季」）を補完する新たな役割を果たしています。また、企画展などでも関連映像を展示室内で上映するなど、活用を図っています。

ただ、視聴できる映像の種類や内容は、限定的にならざるを得ない恨みもあります。当館が有する映像記録は、失われた歴史的景観や職人の手わざ、変容を繰り返す民俗行事の過去の姿を知ることのできる貴重な資料であり、その保存継承と新たな公開方法は、今後の課題です。

当館は、有形民俗資料、写真資料、映像資料、図書資料など、多岐にわたる資料を有しています。およそ半世紀にわたる活動の中でその量は膨大となり、かつ作成時期によって様々な形態で散在しているため、業務を非効率にし、博物館の活動全体に様々な支障をきたしていました。統合的な管理、把握が積年の課題となってきましたが、本年度ようやくその鳥羽口に立つことができました。

社会の要請である公開用データベースについても約1,000件をホームページに掲載しています。

まだ試行の段階ですが、例えば奈良県指定有形民俗文化財「奈良県の牛耕用具」544点を一覧すると、比較資料の豊富さが、有形民俗資料の理解に大変重要であることを改めて実感します。このことは、当館のコレクション全体にもいえる大きな特色ですが、デジタルデータベースの活用によって、よりわかりやすく伝えることができるようになります。

（文責：横山浩子）



公開用データベースの検索トップ画面

## I. 本館の展示

### 1. 企画展 \*関連ワークショップ詳細は後掲

#### (1) 夏季企画展「雨降る季節のくらしと言葉」

会 期：6月5日(土)～7月25日(日)

雨に関する言葉や風習の紹介をまじえながら、初夏の農作物の様子や雨の日に使われた道具、防水の知恵などについて展示し、関連する記録映像を上映。

##### ①夏のはじまり

田植えの道具・野神まつりの作り物・ミニチュア道具など。

##### ②くらしの中の「雨」

和傘・泥除け付きの下駄・蓑・笠傘作りの道具など。

##### ③映像上映

「中山田の虫送り」、「木津川の祈禱念仏」、「綱越神社のおんぼらまつり」、「上深川の富士垢離」、「大和の伝承技術 番傘」

#### (2) 秋季企画展「奈良のくらしを支えたものづくり」

会 期：9月25日(土)～12月7日(火)

奈良県各地のものづくりに関する資料、郷土産業・観光業の様相を紹介。

##### ① 屋根葺き(杉皮葺、茅葺、瓦葺)

##### ② 藍染め、大和紺

##### ③ 酒造り

##### ④ 灯芯引き

##### ⑤ 奈良観光を支えたものづくり(奈良うちわ・出雲人形・鹿の郷土玩具など)



秋季企画展ちらし

#### (3) 季節展「博物館でひなまつり」

会 期：令和4年2月19日(土)～3月27日(日)

お雛様15組(立雛、流し雛を含む)のほか、お雛さまとともに飾られた風俗人形、イチマサン、雛道具など、江戸時代後期～昭和前期

の資料約100点を展示。

〈本年のトピックス〉京都芸術大学との連携協力により約1年をかけて行われた江戸末期の雛の御殿(御所市)の修復について紹介。



「博物館でひなまつり」展示風景

### 2. スポット展

#### (1) 「子どもの魔除けと郷土玩具」

会 期：5月1日(土)～30日(日)

子どもの健康を願い古くからおこなわれてきた季節の行事や風習を紹介。

##### ① 背守りが刺繍された子ども用の着物

##### ② 創作の刺繍作品

##### ③ 武者人形や虎などの節句飾り・郷土玩具

#### (2) 「戦時下のくらし」

会 期：8月7日(土)～29日(日)

当館が、毎年8月に行う展示。子ども用絵本の内容の変化から戦禍が広がる様子をうかがい、戦時中の家庭での備えや代用品などの生活用品を展示。

##### ① 戦時下の教育—国民学校令—

『講談社の絵本』(昭和14年～17年)

竹槍、戦時ばき(草履)など



「戦時下のくらし」ちらし



- ②戦時下のくらしー配給制度・代用品ー  
衣料切符、精米用の一升瓶、防毒マスク、  
空襲警報看板、国民服、防空頭巾、防火バ  
ケツ

## II. 民家園の展示

### 1. 写真展「私がとらえた大和の民俗」

会 期：令和4年2月23日(水・祝)～3月27日(日)  
会 場：旧萩原家住宅・旧赤土家離座敷  
共 催：奈良民俗写真の会

奈良に縁のある写真家が奈良の民俗行事、風景を  
写真作品にする競作展。10年目を迎える本年は、  
特に共通テーマは設定せず、参加する写真家がそ  
れぞれ想う民俗行事、風景を3枚一組の作品と  
して展示。

〈展示作品〉川島朱実「願掛け」/川畑秀樹  
「モノリス、2022」/志岐利恵子「それぞれの今」  
/田中真人「コロナ禍、その時のT家」/當麻武  
「最後の営み(安堵町・寺垣内)」/的場啓  
「三輪素麺」/森川光章「新しい生活様式」/  
吉崎喜寿「茶摘み」



写真展「私がとらえた大和の民俗」展示風景

### 2. 古民家でひなまつり

会 期：2月12日(土)～3月6日(日)  
場 所：旧白井家住宅

春をよぶ恒例の催し。江戸時代の町家、旧白井  
家住宅(重要文化財)に華やぎを添える、昭和  
50年代八段屏風飾りのフォトジェニックなお雛  
様が人気。



「古民家でひなまつり」展示風景

## III. サテライト展

### 1. サテライト展 in 図書情報館

会 期 11月2日(火)～14日(日)

場 所：奈良県立図書情報館

テーマ：“くらし”を感じる日々の道具ー奈良の衣食住ー  
幅広い利用層を有する図書情報館で、民俗資料  
の専門博物館である当館の活動について周知を  
図る。所蔵する有形民俗資料や大和民俗公園内  
の民家、これらを活用した展示やワークショップ  
などの様々な活動について、実物とパネルを  
交えて紹介。

- ① 道具でみる奈良のくらしー衣・食・住ー
- ② 写真でみる奈良のくらし
- ③ みんなの活動紹介・新展示の紹介

### 2. 奈良まほろば館サテライト展

会 期：令和4年1月15日(土)～23日(日)

場 所：奈良まほろば館(東京都港区新橋)

テーマ：“くらし”を感じる日々の風景

ーなつかしくて新しい、奈良ー

協 力：象印マホービン株式会社

田中真人氏、森川光章氏



奈良まほろば館配布ちらし(表・裏)

コンセプトは「今行きたい奈良、いつか行きたい奈良」。何気ない日々の風景に着目し、変化していく生活と昔ながらの生活が混ざり合う、奈良の魅力を東京に向けて発信。古民家や昔の道具を今に伝え、活かしていく当館の取り組みについても併せて紹介。

〈展示写真〉郷土料理「ゆうべし」を吊した軒先(十津川村)/飛鳥川にかかる勧請縄(明日香村)  
水溜めを泳ぐ鯉と収穫の風景(十津川村)/  
家形に積み上げられた藁塚(大和郡山市)/鳥居

形の樋が立つ広大な溜池(奈良市) / 稲藁を乾燥させる多段式の「ハデ」(五條市) / 初夏の田園風景(斑鳩町)

造りと深い関係にある「杉玉」にフォーカス。ミニチュアの杉玉製作と併せて、杉玉の歴史や面白さがわかる解説シートを配布。

## 【催し物】

### I. ワークショップ・体験

#### 1. 展示関連ワークショップ・体験

##### (1) 夏季企画展「雨降る季節のくらしと言葉」

###### ① 「雨の名前しおり作り」(56名)

実施日：7月3日(土)、4日(日)、17日(土)、18日(日)

場 所：博物館 多目的室

日本人の感性がたぎ出した「雨の呼称」に親しむワークショップ。

###### ② 「和傘をさして古民家を散歩しよう」

実施日：6月5日(土)～7月25日(日)

##### (2) 秋季企画展「奈良のくらしを支えたものづくり」

###### 「はぎれで縄ない体験」(51名)

実施日：9月26日(日)・10月24日(日)

場 所：博物館 多目的室



ワークショップ「はぎれで縄ない体験」

「<sup>な</sup>縄う」(糸や紐を撚り合わせる)という技術を使って布の端切れでストラップに挑戦。藁細工の基本であること、「縄ない機」の仕組みにもつながることなども紹介。

#### 2. 出張ワークショップ

##### (1) 「毛糸のミニチュア杉玉を作ってみよう」(27名)

実施日：11月21日(日)

場 所：奈良県立万葉文化館

奈良県立万葉文化館開館20周年記念特別展「うま酒の国 大和」(10月9日～11月23日)に関連して、大人から子どもまで広く酒の文化に親しめるワークショップを実施。酒

##### (2) 「ミニチュア杉玉づくり」(8名)

実施日：令和4年1月23日(日)

場 所：奈良まほろば館(東京)

奈良まほろば館サテライト展「くらし」を感じる日々の風景—なつかしくて新しい、奈良—(前掲)の関連催しとして実施。造り酒屋が軒先に吊す「杉玉」の風習は大神神社に始まるともいわれること、奈良には日本酒の歴史とも深い関わりがある場所が多くあることなどを紹介。



「ミニチュア杉玉づくり」

##### (3) みんなで出張ワークショップ in イオンモール大和郡山

###### 「うさぎのひなかざりを作ろう！」(31名)

実施日：令和4年2月1日(火)

場 所：イオンモール大和郡山

折り紙や紙粘土など身近な素材を使ってゆらゆら揺れるかわいいうさぎの置き飾り作りに挑戦。当館「ひなまつり」展のPRイベント。



「うさぎのひなかざりを作ろう！」

#### 3. 「奈良県 山の日・川の日」参加事業

場 所：博物館 多目的室

協 力：矢田の里たけのこクラブ

##### (1) 「竹と木でおもちゃを作ろう！やじろべえ」(24名)

実施日：7月24日(土)・24日(日)

##### (2) 「竹と木でおもちゃを作ろう！帆船」(20名)

実施日：8月14日(土)

##### (3) 「竹と木でおもちゃを作ろう！竹鉄砲」(25名)

実施日：8月15日(日)



4. みんなのお正月－2種類のコマ作りと芸能上演－

(1) アイロンビーズでコマ作り (計 105名)

実施日：令和3年12月25日(土)・26日(日)  
令和4年1月5日(水)・6日(木)

場 所：博物館 多目的室

(2) 新春芸能上演 (計 50名)

実施日：令和4年1月6日(木)

場 所：旧臼井家住宅

協 力：民芸寺子屋

本年度は、年末・年始にかけて実施。お正月に因んだコマ作りと和太鼓や獅子舞、南京玉すだれなどの上演など。コマ作りは、アイロンビーズを使って製作。併せてアイロンの移りかわりがわかる火熨斗や炭火アイロンなどの資料を展示。

II. みんな秋まつり (5,664名うち博物館2,605名)

実施日：11月13日(土)～14日(日)

場 所：民俗博物館・大和民俗公園内民家園

「作る・食べる・たのしむ」がキーワード。秋にぴったりのワークショップ・物産の販売、ストリートピアノ&ホールコンサート・雅楽、邦楽の演奏など多彩なプログラムを企画。奈良県指定文化財 旧木村家住宅の見学会(後掲)、旧前坊家では、貸切撮影会を開催。広々とした空間を活かし、秋のひとつときを楽しんで頂くオムニバス型イベント。



「大和機で麻布を織る」公開と芸能上演

〈参加・協力〉\*順不同

カナタコナタ/民芸寺子屋/ならくみひも鳳美/角砂糖/矢田の里たけのこクラブ/里山の駅風とんぼ/むろうはちみつ/紙芝居工房・適/一般財団法人奈良の鹿愛護会/大和郡山市観光ボランティアガイドクラブ/澤田絹子氏/ボーイスカウト奈良県連盟/大和郡山市観光協会/旅するピザ職人 河内佑介氏/Indi庵/すいれん薬局/楽楽笑会/青丹雅楽会/上田流尺八と琴のみなさん/キッチンカー えん屋/Blue Eagle Cafe/ULTIMATE CREPES

III. 梅まつり (1,980名うち博物館767名)

実施日：令和4年3月5日(土)～3月6日(日)

場 所：民俗博物館・大和民俗公園民家園

「古民家でひなまつり」、「民俗博物館でひなまつり」が開催され、みんなく梅林が見頃を迎える時期に、本館、民家園が一体となって利用者に楽しんでいただける催しを開催。

〈参加・協力〉\*順不同

里山の駅風とんぼ/なら楽鼓の会/キッチンカー えん屋/FMヤマト/農せんと/矢田の里 たけのこクラブ/ULTIMATE CREPES

【指定文化財(民家)の保存修理】



令和3年度は、大和民俗公園内吉野エリアに移築復原されている奈良県指定有形文化財(建造物)旧木村家住宅主屋、表門、棟門など、主に杉皮葺の杉皮葺(一部柿葺)屋根の葺き替え工事を実施。

葺き替え工事中、2度にわたり見学会を行い、修理完成記念として講演会を開催。

1. 指定文化財修理現場見学会

(1) 令和3年11月13日(土)、14日(日)

(当時間内随時受入れ 計 317名)

協 力：一般財団法人京都伝統建築技術協会伝統建築研究所  
葺き替え工事用足場に上り、旧木村家住宅や屋根材の杉皮と杉皮葺の概要、修理状況等について専門技術者による説明を受けながら、工事期間中しかみることのできない屋根の様子を間近で見学。



現場見学会

- (2) 令和 4 年 3 月 5 日 (土)、6 日 (日)  
 (事前申し込み 計 39 名)  
 協力：谷上社寺工業株式会社  
 一般財団法人京都伝統建築技術協会伝統建築研究所  
 葺き替え工事用足場の上り、屋根の様子を間近に見ながら材料の杉皮の採取、加工から屋根葺にいたる工程と技術について専門技術者が解説。また、工事期間中立ち入りができなかった居室部の上り、奈良県の指定文化財である旧木村家住宅の特色などについて説明をうけながら見学。

## 2. 修理完成記念講演会

- 日 時：令和 4 年 3 月 6 日 (日) (21 名)  
 場 所：博物館 講義室  
 講演テーマ：「近世民家の住まい方」  
 講 師：公益財団法人竹中大工道具館 安田徹也氏  
 燃料の調達方法や使い方、猫との共生、居室を清潔に保つ意識など、当時の民家の住まい方の一端を紹介し、江戸時代の民家ではどのような暮らしが営まれていたのか考える。

## 【連続講座】

### 「大和機で麻布を織る」

- 期 間：令和 3 年 4 月～令和 4 年 3 月 (全 22 回)  
 講 師：澤田絹子氏  
 新型コロナウイルスの影響により、新規募集は見合わせ。2 期生～4 期生 14 名が継続受講。5 月は講座の中止を余儀なくされましたが、(11 月と 2 月に各 1 回振り替え実施) 受講生による作品展をはじめ開催することができました。  
 ○「大和機で麻布を織る」講座受講生による作品展  
 会 期：令和 4 年 3 月 12 日 (土)～27 日 (日)  
 場 所：奈良県立民俗博物館玄関ロビー  
 受講生による手織り布のほか、手績み経・緯糸、大和機、かせ掛け、衣桁(糊づけ工程用具)な

どを展示。受講生の作品を通して、「麻」という難しい素材に悪戦苦闘しながら 1 枚の布を織りあげるまでの軌跡を紹介。

## 【はたおり実演】

- 実施日：令和 3 年 4 月～令和 4 年 3 月  
 毎月第 4 日曜日 (12 月除く) 全 11 回  
 協 力：澤田絹子氏  
 4 月、5 月は、新常設展示室「地域のものづくり」の大和もめんコーナーで、大和機の機掛け作業の実演を行い、展示。  
 6 月からは、多目的室で麻織りの実演を行うほか、コロナ禍のもと、限定的ながら綿繰り、綿打ち、糸つむぎ、苧績みの実演や体験も実施。兵庫県、三重県、京都府など県外からの見学、糸や布を持ち込んでの具体的で専門的な相談もいただきました。

## 【学校・博物館との連携・協力】

### 1. 大学との連携

- (1) 帝塚山大学大学院  
 人文科学研究科日本伝統文化専攻後期博士課程在籍者のインターンシップ受け入れ (23 年度協定締結 令和 3 年度希望者なし)  
 (2) 京都芸術大学  
 有形民俗資料の保存・継承、活用に関する教育研究活動についての相互協力。館蔵資料を修復の実習資料として貸し出し、教育、研究に活用するとともに、博物館資料の保存、継承に寄与する。(平成 29 年度協定締結)

〈令和 3 年度の修復対象(貸出)資料〉

- 弁当箱、重箱、馬上提灯、踏み鋤、炭火アイロン、千歯扱き(麦)、千歯扱き(米)、有明行燈、弓張提灯、ランプのホヤなど 計 13 件 15 点

### 2. 団体見学(小学校～高等学校)

- ・4 月 30 日(金) 田原本町立北小学校 (74 名)
- ・5 月 7 日(金) 天理市立二階堂小学校 (109 名)
- ・5 月 12 日(水) 香芝市立真美ヶ丘東小学校 (72 名)
- ・5 月 14 日(金) 香芝市立真美ヶ丘西小学校 (142 名)
- ・5 月 18 日(火) 天理市立山の辺小学校 (47 名)
- ・5 月 19 日(水) 天理市立前栽小学校 (137 名)
- ・5 月 26 日(水) 天理市立丹波市小学校 (74 名)
- ・5 月 27 日(木) 香芝市立二上小学校 130 (130 名)

- ・ 5月 28日 (金) 奈良市立明治小学校 (61名)
- ・ 5月 28日 (金) 田原本町立平野小学校 (66名)
- ・ 6月 9日 (水) 私立奈良学園小学校 (62名)
- ・ 6月 18日 (金) 田原本町立田原本小学校 (88名)
- ・ 7月 2日 (金) 香芝市立関屋小学校 (66名)
- ・ 9月 28日 (火) 大淀町立大淀桜ヶ丘小学校 (35名)
- ・ 9月 30日 (木) 王寺町立王寺小学校 (98名)
- ・ 10月 1日 (金) 大和高田市立片塩小学校 (61名)
- ・ 10月 1日 (金) 奈良市立都跡小学校 (97名)
- ・ 10月 1日 (金) 奈良市立富雄南小学校 (88名)
- ・ 10月 5日 (火) 奈良市立登美ヶ丘小学校 (99名)
- ・ 10月 5日 (火) 王寺町立王寺南小学校 (119名)
- ・ 10月 6日 (水) 天理市立櫛本小学校 (63名)
- ・ 10月 6日 (水) 香芝市立鎌田小学校 (80名)
- ・ 10月 7日 (木) 奈良市立済美小学校 (80名)
- ・ 10月 7日 (木) 宇陀市立大宇陀小学校 (31名)
- ・ 10月 8日 (金) 奈良市立あやめ池小学校 (80名)
- ・ 10月 8日 (金) 橿原市立畝傍東小学校 (98名)
- ・ 10月 8日 (金) 御所市立大正小学校 (26名)
- ・ 10月 12日 (火) 大和郡山市立治道小学校 (26名)
- ・ 10月 12日 (火) 奈良市立鳥見小学校 (75名)
- ・ 10月 12日 (火) 三郷町立三郷北小学校 (138名)
- ・ 10月 13日 (水) 奈良市立左保川小学校 (69名)
- ・ 10月 13日 (水) 橿原市立金橋小学校 (69名)
- ・ 10月 14日 (木) 香芝市立下田小学校 (130名)
- ・ 10月 14日 (木) 桜井市立桜井西小学校 (74名)
- ・ 10月 15日 (金) 上牧町立上牧第三小学校 (62名)
- ・ 10月 19日 (火) 広陵町立広陵東小学校 (107名)
- ・ 10月 19日 (火) 大淀町立大淀緑ヶ丘小学校 (43名)
- ・ 10月 20日 (水) 広陵町立広陵西小学校 (126名)
- ・ 10月 20日 (水) 広陵町立真美ヶ丘第二小学校 (68名)
- ・ 10月 21日 (木) 桜井市立桜井南小学校 (128名)
- ・ 10月 22日 (金) 大和郡山市立郡山南小学校 (81名)
- ・ 10月 22日 (金) 天理市立柳本小学校 (41名)
- ・ 10月 26日 (火) 三郷町立三郷小学校 (85名)
- ・ 10月 27日 (水) 大和郡山市立矢田南小学校 (81名)
- ・ 10月 27日 (水) 天理市立井戸堂小学校 (107名)
- ・ 10月 28日 (木) 生駒市立壱分小学校 (146名)
- ・ 10月 28日 (木) 吉野町立吉野小学校 (29名)
- ・ 10月 29日 (金) 生駒市立生駒北小学校 (27名)
- ・ 10月 29日 (金) 奈良市立平城西小学校 (55名)
- ・ 10月 29日 (金) 大和郡山市立郡山西小学校 (85名)
- ・ 11月 2日 (火) 奈良市立右京小学校 (32名)
- ・ 11月 2日 (火) 橿原市立真菅小学校 (102名)
- ・ 11月 4日 (木) 斑鳩町立斑鳩小学校 (113名)
- ・ 11月 5日 (金) 奈良市立飛鳥小学校 (70名)
- ・ 11月 5日 (金) 奈良市立六条小学校 (103名)
- ・ 11月 9日 (火) 奈良市立平城小学校 (94名)
- ・ 11月 9日 (火) 大和高田市立浮孔西小学校 (51名)
- ・ 11月 10日 (水) 奈良市立神功小学校 (33名)
- ・ 11月 11日 (木) 奈良市立西大寺北小学校 3年生 (105名)
- ・ 11月 11日 (木) 上牧町立上牧小学校 (57名)
- ・ 11月 12日 (金) 奈良市立西大寺北小学校 4年生 (81名)
- ・ 11月 12日 (金) 大和高田市立高田小学校 (90名)
- ・ 11月 16日 (火) 奈良市立伏見小学校 (130名)
- ・ 11月 16日 (火) 田原本町立東小学校 (21名)
- ・ 11月 17日 (水) 橿原市立耳成西小学校 (68名)
- ・ 11月 18日 (木) 奈良市立三碓小学校 (120名)
- ・ 11月 19日 (金) 奈良市立鶴舞小学校 (60名)
- ・ 11月 24日 (水) 平群町立平群北小学校 (53名)
- ・ 11月 25日 (木) 奈良市立佐保台小学校 (51名)
- ・ 11月 25日 (木) 奈良市立青和小学校 (93名)
- ・ 11月 25日 (木) 橿原市立耳成小学校 (85名)
- ・ 11月 26日 (金) 大和郡山市立矢田小学校 4年生 (36名)
- ・ 11月 30日 (火) 斑鳩町立斑鳩西小学校 3年生 (77名)
- ・ 11月 30日 (火) 木津川市立高の原小学校 (56名)
- ・ 12月 2日 (木) 生駒市立生駒小学校 (111名)
- ・ 12月 3日 (金) 奈良東養護学校 高等部 (9名)
- ・ 12月 3日 (金) 東大阪市立八戸の里小学校 (64名)
- ・ 1月 12日 (水) 大和郡山市立片桐小学校 (60名)
- ・ 1月 18日 (火) 大和高田市立浮孔小学校 (67名)
- ・ 1月 20日 (木) 大淀町立大淀希望ヶ丘小学校 (38名)
- ・ 1月 28日 (金) 大和郡山市立矢田小学校 3年生 (35名)
- ・ 2月 1日 (火) 奈良県立盲学校 (4名)
- ・ 3月 11日 (金) 奈良市立大安寺小学校 (66名)

計 88校 6,180名



## 【貸出・特別閲覧】

1. 有形資料の貸出 ※連携協定による貸出をのぞく
- 三重盃、錫銚子、長柄銚子、片口、ハト、婚礼用酒樽 (角樽)、通徳利、弁当箱、遊山弁当箱、野遊び弁当、あられ酒用ガラス製瓢箪型瓶、すき焼き台 (13点)



- [ 展示 ] 奈良県立万葉文化館
- 火のし、手燭、炭火アイロン、黒電話、飯ふご (5 点)
  - [ 授業教材 ] 大阪教育大学附属特別支援学校高等部
- 千歯抜き、足踏み脱穀機 (2 点)
  - [ 地域交流事業 ] 奈良県立精華学院
- 千歯抜き、唐箕 (2 点)
  - [ 米作り体験授業 ] 大和郡山市立大和郡山南小学校
- 唐箕 [ 地域交流事業、稲作体験 ] 奈良県立精華学院
- 糸車、綿くり器 (2 点 体験学習用機材)
  - [ 第 1 学年国語『たぬきの糸車』学習資料 ]  
近畿大学付属小学校
- 炭火アイロン、火のし、飯かご、飯ふご、黒電話、こたつ (6 点)
  - [ 第 3 学年社会科「昔の暮らし」学習資料 ]  
大和郡山市立大和郡山西小学校
- 糸車 (1 点 体験学習機材)
  - [ 第 1 学年国語科『たぬきの糸車』学習資料 ]  
奈良市立右京小学校
- 羽釜、ガス炊飯器、炭火アイロン、火のし、黒電話、たらい、白金カイロ、湯たんぼ、ラジオ、回転ごたつ (10 点)
  - [ 小学校社会科学習教材 ] 堺市立三原北小学校
- 炭火アイロン、羽釜、飯ふご、飯かご、黒電話、回転ごたつ、蓑、がんどう (8 点)
  - [ 小学校第 3 学年社会科「昔の暮らし」学習教材 ]  
奈良市立朱雀小学校
- 炭火アイロン、火のし、綿くり器、羽釜、弁当箱、水筒、手燭、回転炬燵 (8 点)
  - [ 社会科「昔の道具調べ教材」奈良市立富雄北小学校
- 糸車 (1 点 体験学習用機材)
  - [ 小学校第 1 学年国語科『たぬきの糸車』学習資料 ]  
広陵町立広陵西小学校

## 2. 写真、映像の撮影、データ使用等

- 旧前坊家住宅 (ドローン撮影)
  - [ デジタルアーカイブ実験 ] 株式会社文化財サービス
- 万石とおし、千歯抜き (当館所蔵資料写真使用同意)
  - [ 『総合学習 百科事典 ポプラディア (第 3 版)』掲載 ]  
株式会社アルバ
- 盥、洗濯板、炭火アイロン、氷冷蔵庫、電気炊飯器 (写真提供、出版掲載許可)
  - [ 静岡市教育委員会小学校 副読本掲載 ] 静岡市教育委員会
- 盥、洗濯板、羽釜、電気炊飯器、磁石式電話機、黒電話、プッシュ式電話機 (資料写真提供、出版掲載許可)
  - [ 小学校社会科副読本掲載 ] 田原本町教育委員会

- 掲載郡山金魚関係史料「養魚二関スル諸事績」「養魚に関する概況を略記す」(資料撮影)
  - [ 『郡山の歴史と文化』掲載 ] 「郡山の歴史と文化」編集実行委員会
- 「カラウス踏み」〈吉野町小名、五條市篠原〉 (写真提供、出版掲載許可)
  - [ 月間『学校の食事』掲載 ] 学校食事研究会
- 旧岩本家住宅内カラウス、菖蒲園内水車小屋 (写真提供)
  - [ TBS テレビ「出動！謎ときヒーロー」インサート画像 ]  
株式会社 kimika
- 踏車、唐箕、千歯抜き、馬鋤 (画像使用同意)
  - [ 『マンガでわかる！地球環境とSDG s』株式会社学研プラス発行 ] 有限会社 大悠社
- 旧木村家住宅主屋 (提供、使用許可)
  - [ BS-TBS 放送番組「和の学校スペシャル 隈研吾×尾上菊之助～未来のヒントは“日本人と自然”」インサート画像 ]  
株式会社 TBS スパークル
- アワ、ヒエ (写真提供、使用許可)
  - [ 「聖徳太子没後 1400 年遠忌記念公園」資料 ] 大和郡山市
- 火鉢と裁縫、土間、流し台、台所〈ガスコンロとかまど〉、コタツとテレビ、コタツと火鉢、土間〈水屋筆筒〉 (写真提供、出版掲載)
  - [ 『わたしたちの高取町』掲載 ] 高取町立たかむち小学校
- 丸型行燈とその点灯、石油ランプとその点灯、タンガステンランプとその点灯 (撮影写真使用許可)
  - [ 『青陵同窓会 関西支部会報』(長野県諏訪青陵高等学校同窓会関西支部) 掲載 ] 個人
- 鎌、田舟 (所蔵資料の画像使用同意) [ YouTube コンテンツインサート画像 ] 大分県由布市立東庄内小学校
- 『南都布さらし乃記』、大和高田市曾根大根「四季農耕図絵馬」、奈良晒布〈拡大〉 (画像資料使用許可) [ 『近世の奈良を見つめ直す。』 ] 京阪奈情報教育出版株式会社

## 3. 特別閲覧

- 酒造用具、酒器一式 (展示調査) 奈良県立万葉文化館
- 前田家文書〈託〉(資料調査) 奈良市教育委員会文化財課
- 張子鹿、張子鹿の型、張子寅 (研究調査) 個人
- 金魚養殖等資料 (郷土史『郡山の歴史と文化』に関する資料調査) 「郡山の歴史と文化」編集委員会
- 「奈良の瓦造り用具」一式、「奈良県の牛耕用具」一式、大和万歳資料一式 (指定文化財調査) 奈良まほろぼソムリエの会
- 「大和機」(資料調査) 個人

奈良県立民俗博物館だより Vol.47 No.1 (通巻 113 号)  
 2022 (令和 4) 年 3 月 25 日発行  
 編集発行 奈良県立民俗博物館  
 〒 639-1058 大和郡山市矢田町 545 番地  
 Tel.0743-53-3171 / Fax.0743-53-3173  
 印刷 株式会社近畿印刷センター  
 〒 681-0033 八尾市志紀町南 2 丁目 131 番地  
 Tel.072-920-3488 / Fax.072-920-3455